



土肥 真由美

D o h i M a y u m i

かつての商店がみんなの居場所に

中和小学校のすぐ側に「えがお商店」と呼ばれるその建物はあります。管理運営しているのは、中和いきいきサポーターズ倶楽部。代表の土肥真由美さんは、「最初は、子どもたちの居場所づくりのつもりで始めたんです。まさかこんなことになるとは思ってなくて。」と話します。

3年前、中和小学校のPTA会長をしていた土肥さんは、地域づくり委員会にも参加していました。その頃、地域では空き家調査や真庭なりのわい塾の受け入れも始まっていて、土肥さんの「子どもの居場所づくりがしたい」という一言は空き家の活用を進める大きなきっかけに

真

M A N I W A B I T O

庭人

になりました。

えがお商店がオープンしたのは昨年8月。空き家になっていた築70年の元商店は、子どもたちの学習支援や高齢者のお茶飲み場、中和定住案内所や中和地域自主組織事務局など多彩な用途で使われる建物として生まれ変わりました。地域の人たちを元気にする小さな拠点となったのです。

お金はない、計画もない、自由と人情がある

「中和の地域づくりは、ありがとうの繋がりでプロジェクトが重要なテーマ。お金はない、計画もないことで上手くいってる気がします。みんな

地域の居場所 えがお商店



土肥真由美さん(萩山初和)

中和いきいきサポーターズ倶楽部 代表

3年前に中和小学校のPTA会長を務めたことがきっかけで、地域と学校で連携して子育てをする中和いきいきサポーターズ倶楽部を結成。子育てをテーマに活動を続ける。

なお金がないことを知っているから協力してくれるんです。計画がないからこの先のことをみんなでも自由に決めていくことができます。」と土肥さん。えがお商店にある食器棚やお菓子などは地域の人たちが持ち寄ったものです。花壇に花を植えてくれる人もいます。そうです。「中和らしい景色や風習、人情を大切に、子どもたちの帰ってくる場所をつくりたい。」土肥さんは笑顔で夏休みの計画を練っています。

